

平成 30 年度 第 2 回

希望郷いわてモニターアンケート

インターネット空間における治安等の意識調査 報告書

警察本部サイバー犯罪対策課

インターネット空間における治安等の意識調査

I アンケート調査の概要

1 調査課題名

インターネット空間における治安等の意識調査

2 調査の目的

県民のインターネット利用に係るセキュリティ意識等の実態を把握して、今後のサイバー犯罪対策に資するため。

3 調査期間

平成 30 年 10 月 5 日（金）～平成 30 年 10 月 22 日（月）

4 調査方法

調査紙郵送及びインターネット

5 調査対象

平成 30 年度希望郷いわてモニター 263 名

6 回答者数

217 名

7 回答率

82.5%

Ⅱ アンケート調査結果

(インターネットの御利用状況について)

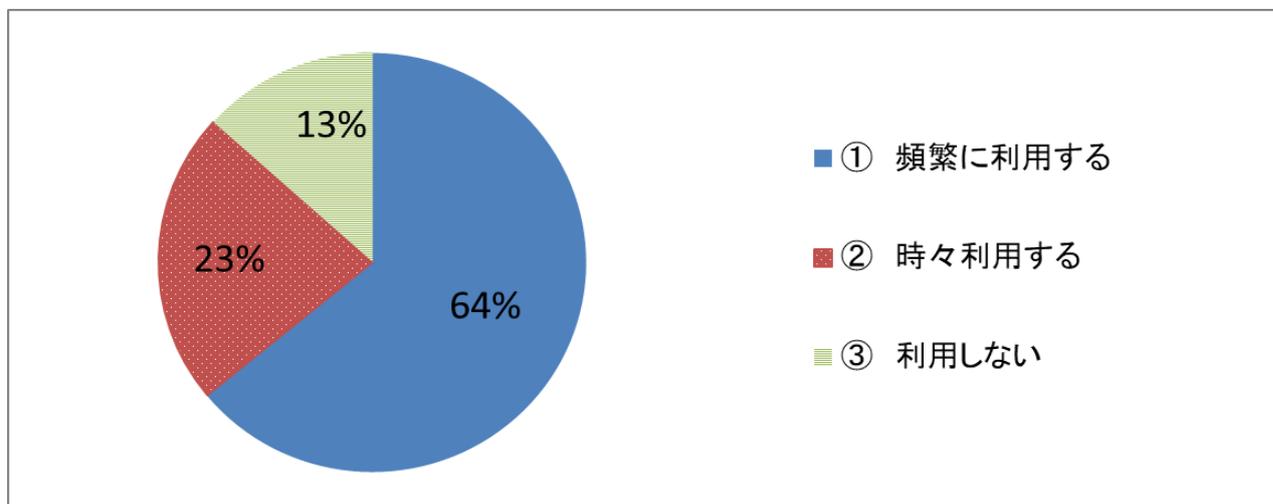
問1 インターネットの御利用状況についてお伺いします。

(1) 普段、インターネット(携帯電話やパソコンなどの利用媒体、目的を問わない。)をどの程度利用していますか。

当てはまるものを1つ選んでください。

- ① 頻繁に利用する(①を選んだ方は(2)、(3)にお進みください。)
- ② 時々利用する(②を選んだ方は(2)、(3)にお進みください。)
- ③ 利用しない(③を選んだ方は(4)にお進みください。)

	人数 (人)	比率	年代別(人)						男女別(人)	
			10代	20代	30代	40代	50代	60代 以上	男性	女性
1 頻繁に利用する	139	64%	13	28	34	31	27	6	63	76
2 時々利用する	49	23%	2	2	2	13	22	8	23	26
3 利用しない	29	13%	0	1	4	4	9	11	11	18
計	217	100%	15	31	40	48	58	25	97	120



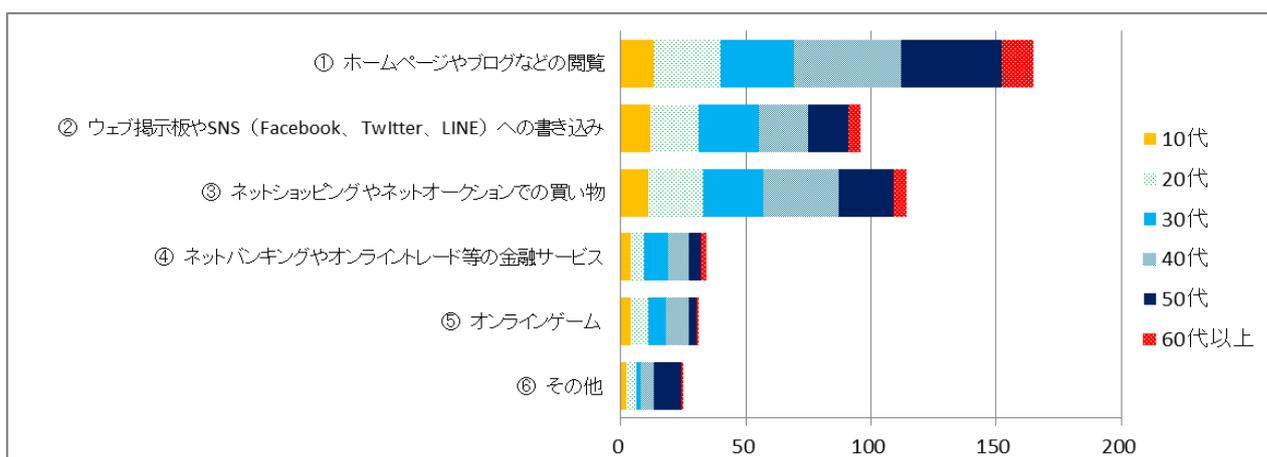
◎ 以下、問1(1)で「①頻繁に利用する」又は「②時々利用する」を選んだ方のみを対象とする質問があります。

(2) (1)で「①頻繁に利用する」又は「②時々利用する」を選んだ方にお伺いします。
インターネットを利用する際、どのようなサービスを利用していますか。(複数回答可)

- ① ホームページやブログなどの閲覧
- ② ウェブ掲示板やSNS (Facebook、Twitter、LINEなど) への書き込み
- ③ ネットショッピングやネットオークションでの買い物
- ④ ネットバンキングやオンライントレード等の金融サービス
- ⑤ オンラインゲーム
- ⑥ その他 (具体的に御記入ください。)

	人数 (人)	比率	年代別(人)						男女別(人)	
			10代	20代	30代	40代	50代	60代 以上	男性	女性
① ホームページやブログなどの閲覧	165	88%	13	27	29	43	40	13	76	89
② ウェブ掲示板やSNS (Facebook、Twitter、LINE)への書き込み	96	51%	12	19	24	20	16	5	49	47
③ ネットショッピングやネットオークションでの買い物	114	61%	11	22	24	30	22	5	50	64
④ ネットバンキングやオンライントレード等の金融サービス	34	18%	4	5	10	8	5	2	13	21
⑤ オンラインゲーム	31	16%	4	7	7	9	3	1	17	14
⑥ その他	25	13%	2	4	2	5	11	1	12	13

※「比率」は問1(1)で「①頻繁に利用する」又は「②時々利用する」を選んだ188人を全体数とする比率。



【その他の回答】

- ・ 情報検索、情報収集。
- ・ 辞書代わり、読書 (小説や漫画)。
- ・ 動画の鑑賞。
- ・ 大容量のデータのやりとり。

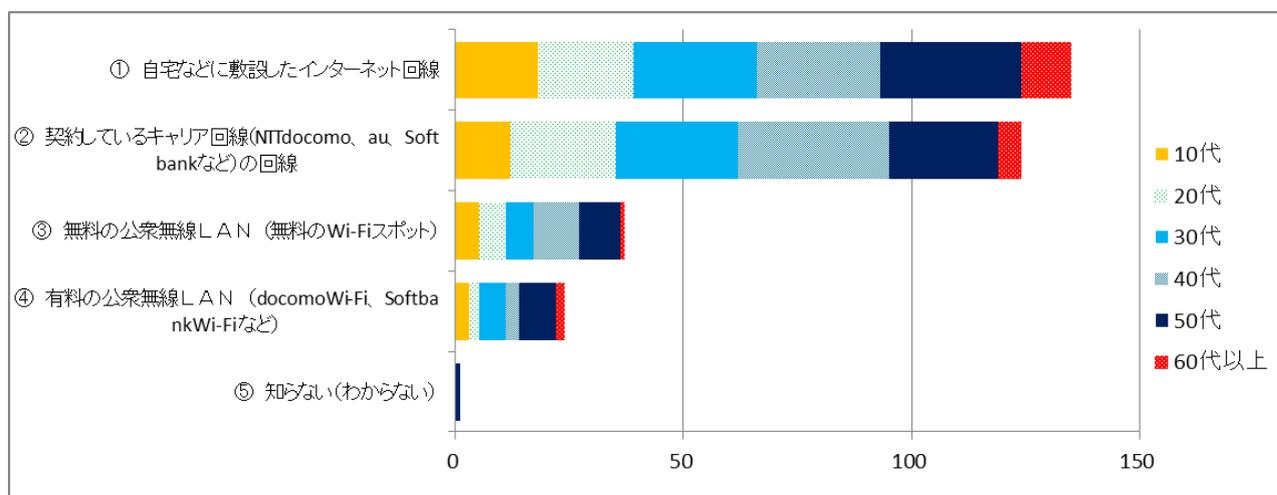
(3) (1)で「①頻繁に利用する」又は「②時々利用する」を選んだ方にお伺いします。

インターネットに接続する際に使用する通信回線は何ですか。(複数回答可)

- ① 自宅などに敷設したインターネット回線
- ② 契約しているキャリア (NTTdocomo、au、SoftBank など) の回線
- ③ 無料の公衆無線LAN (無料のWi-Fi スポット)
- ④ 有料の公衆無線LAN (docomo Wi-Fi、SoftBankWi-Fi など)
- ⑤ 知らない (わからない)

	人数 (人)	比率	年代別(人)						男女別(人)	
			10代	20代	30代	40代	50代	60代 以上	男性	女性
① 自宅などに敷設したインターネット回線	118	63%	18	21	27	27	31	11	54	64
② 契約しているキャリア(NTTdocomo、au、Softbankなど)の回線	124	66%	12	23	27	33	24	5	55	69
③ 無料の公衆無線LAN(無料のWi-Fiスポット)	37	20%	5	6	6	10	9	1	23	14
④ 有料の公衆無線LAN(docomoWi-Fi、SoftbankWi-Fiなど)	24	13%	3	2	6	3	8	2	11	13
⑤ 知らない(わからない)	1	1%	0	0	0	0	1	0	0	1

※「比率」は問1(1)で「①頻繁に利用する」又は「②時々利用する」を選んだ188人を全体数とする比率。



【結果概要】

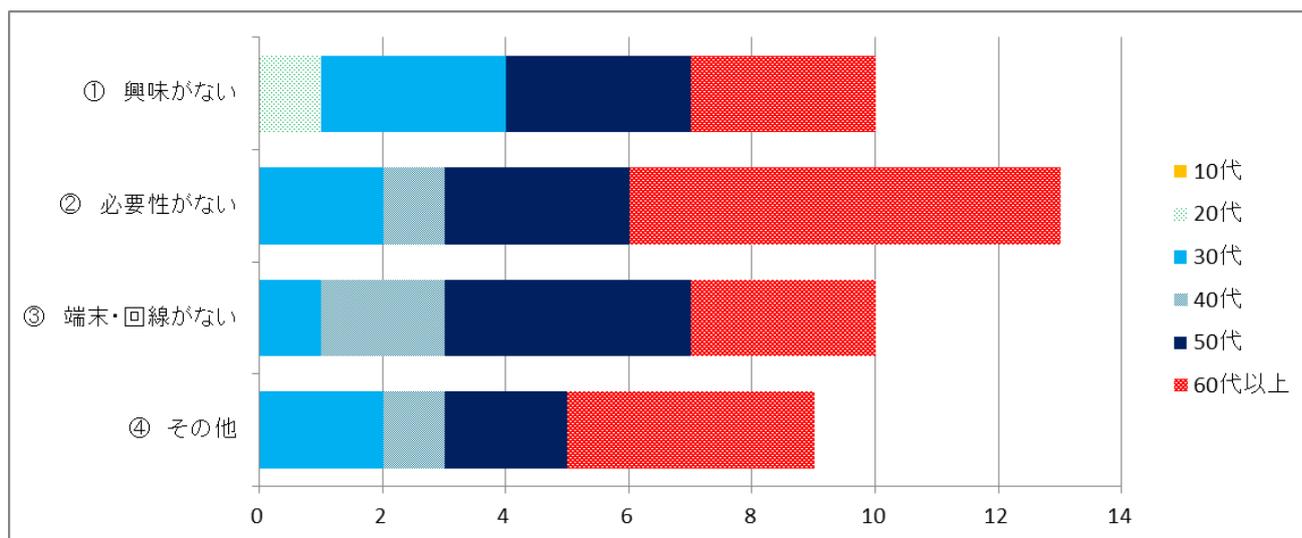
公衆無線LANの利用者は、1、2割程度にとどまるものの、性別年齢を問わず利用されていることが明らかとなった。今後、公衆無線LANのさらなる普及が見込まれることから通信の盗聴等に対するセキュリティ意識の重要性について、広報啓発を継続していく必要が認められる。

(4) (1)で「③利用しない」を選んだ方にお伺いします。
インターネットを利用しない理由は何ですか。(複数回答可)

- ① 興味がない
- ② 必要性がない
- ③ 端末・回線がない
- ④ その他(具体的に御記入ください。)

	人数 (人)	比率	年代別(人)						男女別(人)	
			10代	20代	30代	40代	50代	60代 以上	男性	女性
① 興味がない	10	34%	0	1	3	0	3	3	3	7
② 必要性がない	13	45%	0	0	2	1	3	7	5	8
③ 端末・回線がない	10	34%	0	0	1	2	4	3	6	4
④ その他	9	31%	0	0	2	1	2	4	2	7

※「比率」は問1(1)で「③利用しない」を選んだ29人を全体数とする比率。



【その他の回答】

- ・トラブルに巻き込まれることが不安。
- ・使い方がわからない(高齢のため)。
- ・情報検索等は家族がやってくれるため。
- ・インターネット費用が高額なイメージがある。
- ・インターネット端末を持っていない。
- ・興味がない。

(インターネット空間の治安に対する意識について)

問2 インターネット上のトラブルに巻き込まれた経験がありますか。(複数回答可)

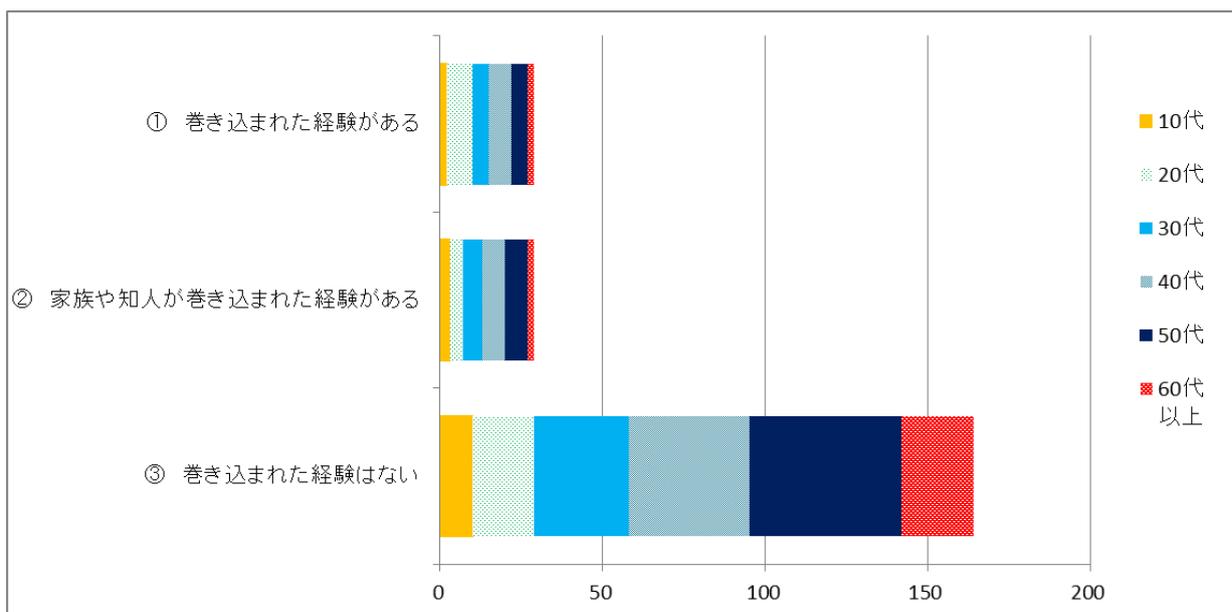
- ① 巻き込まれた経験がある
- ② 家族や知人が巻き込まれた経験がある
- ③ 巻き込まれた経験はない

	人数 (人)	比率	年代別(人)						男女別(人)	
			10代	20代	30代	40代	50代	60代 以上	男性	女性
① 巻き込まれた経験がある	29	14%	2	8	5	7	5	2	13	16
② 家族や知人が巻き込まれた経験がある	29	14%	3	4	6	7	7	2	12	17
③ 巻き込まれた経験はない	164	77%	10	19	29	37	47	22	75	89

【参考】

○ 1、2ともに選んだ人	4	2%
○ 1、2いずれかを選んだ人	54	25%

※「比率」は問2の回答者数214人を全体数とする比率。(無回答3人)



【結果概要】

本人、家族や知人がトラブルに巻き込まれた経験があると回答した方は25% (54名)に上り、インターネット上のトラブルが身近な問題の一つとなっていることがわかった。

問3 平成29年中、県警察で受理したサイバー犯罪に関係する相談は2,989件に上り、その約7割(2,055件)が、インターネットを介した詐欺、悪質商法に関する相談でした。

(1) ウェブメールやウェブサイトを利用した詐欺の手口について、知っているものを選んでください。(複数回答可)

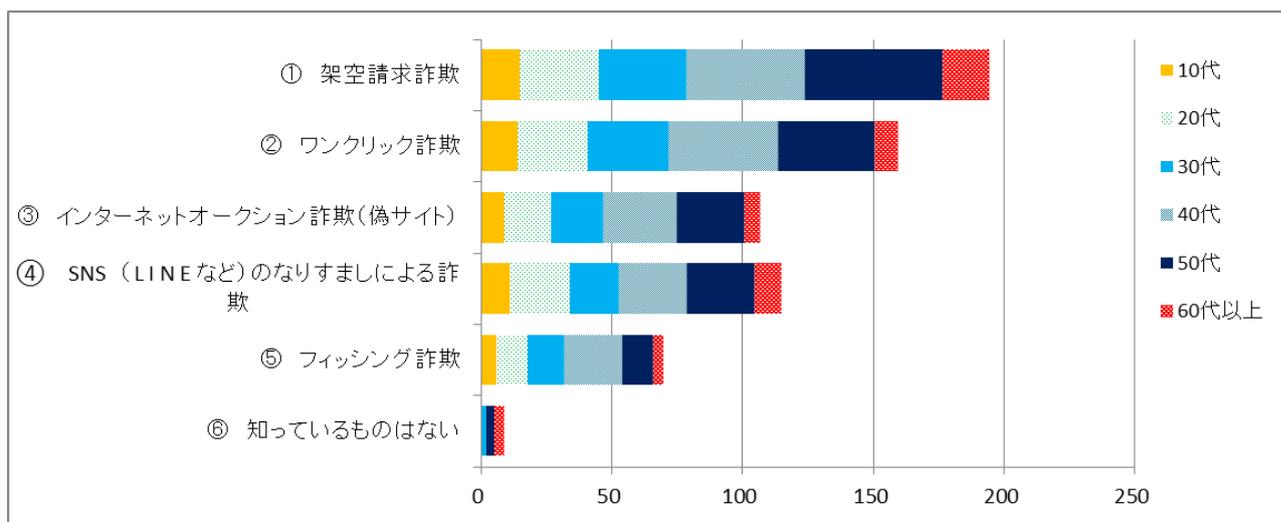
- ① 架空請求詐欺
- ② ワンクリック詐欺
- ③ インターネットオークション詐欺(偽サイト)
- ④ SNS(LINEなど)のなりすましによる詐欺
- ⑤ フィッシング詐欺
- ⑥ 知っているものはない

	人数(人)	比率	年代別(人)						男女別(人)	
			10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	男性	女性
① 架空請求詐欺	195	92%	15	30	34	45	53	18	85	110
② ワンクリック詐欺	160	75%	14	27	31	42	37	9	72	88
③ インターネットオークション詐欺(偽サイト)	107	50%	9	18	20	28	26	6	52	55
④ SNS(LINEなど)のなりすましによる詐欺	115	54%	11	23	19	26	26	10	51	64
⑤ フィッシング詐欺	70	33%	6	12	14	22	12	4	39	31
⑥ 知っているものはない	9	4%	0	0	2	0	3	4	7	2

【参考】

○ 全部知っていると回答した人	44	21%
-----------------	----	-----

※「比率」は問3の回答者数213人を全体数とする比率。(無回答4人)



【結果概要】

フィッシング詐欺以外の手口は幅広い年代で認知されているものの、一般的な手口全てを知っている人は21%(44人)にとどまり、今後、情報モラル講義や情報発信等により、自主的な被害防止意識の醸成を図っていく必要が認められる。

～ 参 考 ～

1 架空請求詐欺

「サイト利用料金が未納である」などと、ありもしない内容のメールを送り付けて金銭の支払いを要求するもの。

2 ワンクリック詐欺

ウェブサイト閲覧時に「有料サイトに登録された」などの文面を画面に表示させ、金銭の支払いを要求するもの。

3 インターネットオークション詐欺（偽サイト）

インターネットオークション取引において、通常に通販用ウェブサイト等を偽装した偽サイトに誘導して購入代金名目に入金させ、金銭をだまし取るもの。

4 SNSのなりすましによる詐欺

SNSの個人アカウントを乗っ取り、アカウント所有者を装い他者に金銭の支払い（電子マネーの購入等）を要求するもの。

5 フィッシング詐欺

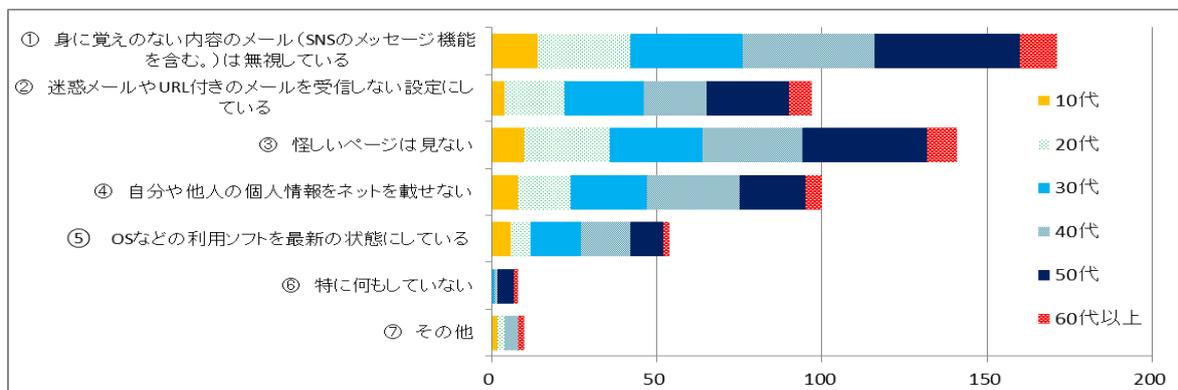
銀行等の企業を装ってメールを送り、メールの受信者に、実在する企業の偽ホームページにアクセスさせて、クレジットカード番号や ID・パスワード等を入力させるなどして、不正に個人情報等を入手するもの。

(2) 問1(1)で「①頻繁に利用する」又は「②時々利用する」を選んだ方にお伺いします。
インターネットを利用する上で、詐欺の被害に遭わないためにどのようなことに気を付けていますか。(複数回答可)

- ① 身に覚えのない内容のメール(SNSのメッセージ機能を含む。)は無視している
- ② 迷惑メールやURL付きのメールを受信しない設定にしている
- ③ 怪しいページは見ない
- ④ 自分や他人の個人情報をネットに載せない
- ⑤ OSなどの利用ソフトを最新の状態にしている
- ⑥ 特に何もしていない
- ⑦ その他(具体的に御記入ください。)

	人数(人)	比率	年代別(人)						男女別(人)	
			10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	男性	女性
① 身に覚えのない内容のメール(SNSのメッセージ機能を含む。)は無視している	171	91%	14	28	34	40	44	11	78	93
② 迷惑メールやURL付きのメールを受信しない設定にしている	97	52%	4	18	24	19	25	7	40	57
③ 怪しいページは見ない	141	75%	10	26	28	30	38	9	60	81
④ 自分や他人の個人情報をネットに載せない	100	53%	8	16	23	28	20	5	38	62
⑤ OSなどの利用ソフトを最新の状態にしている	54	29%	6	6	15	15	10	2	26	28
⑥ 特に何もしていない	8	4%	0	0	1	1	5	1	7	1
⑦ その他	10	5%	2	2	0	4	0	2	6	4

※「比率」は問1(1)で「①頻繁に利用する」又は「②時々利用する」を選んだ188人を全体数とする比率。



【その他の回答】

- ・ウイルス対策を強化している。
- ・身に覚えのないメールアドレスは情報検索するなどして危険性を把握している。
- ・常にサイバー犯罪に対する意識を持ちながら利用している。
- ・高齢のためにインターネットを利用していない。

【結果概要】

インターネットを利用する上で、ほとんどの人が、何らかの形で詐欺被害に遭わないよう注意していることがわかった。

問4 インターネットの利用について、どのような不安を感じますか。（複数回答可）

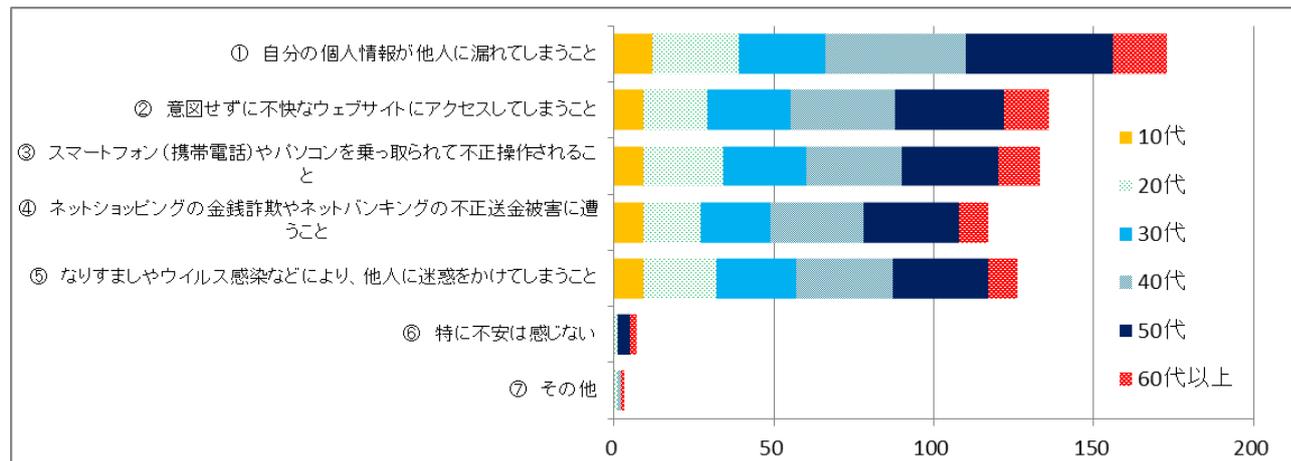
- ① 自分の個人情報が他人に漏れてしまうこと
- ② 意図せずに不快なウェブサイトにアクセスしてしまうこと
- ③ スマートフォン（携帯電話）やパソコンを乗っ取られて不正操作されること
- ④ ネットショッピングの金銭詐欺やネットバンキングの不正送金被害に遭うこと
- ⑤ なりすましやウイルス感染などにより、他人に迷惑をかけてしまうこと
- ⑥ 特に不安は感じない
- ⑦ その他（具体的に御記入ください。）

	人数 (人)	比率	年代別(人)						男女別(人)	
			10代	20代	30代	40代	50代	60代 以上	男性	女性
① 自分の個人情報が他人に漏れてしまうこと	173	81%	12	27	27	44	46	17	73	100
② 意図せずに不快なウェブサイトにアクセスしてしまうこと	136	64%	9	20	26	33	34	14	61	75
③ スマートフォン(携帯電話)やパソコンを乗っ取られて不正操作されること	133	62%	9	25	26	30	30	13	56	77
④ ネットショッピングの金銭詐欺やネットバンキングの不正送金被害に遭うこと	117	55%	9	18	22	29	30	9	54	63
⑤ なりすましやウイルス感染などにより、他人に迷惑をかけてしまうこと	126	59%	9	23	25	30	30	9	61	65
⑥ 特に不安は感じない	7	3%	0	1	0	0	4	2	6	1
⑦ その他	3	1%	0	1	0	1	0	1	0	3

【参考】

○ 全ての項目に不安を感じると回答した人	51	24%
----------------------	----	-----

※「比率」は問4の回答者数214人を全体数とする比率。（無回答3人）



【その他の回答】

- ・セキュリティ対策をどの程度までやったらいいのかわからない。
- ・ネット上に掲載した自分の作品が無断で他人に使用されること。

【結果概要】

全項目について半数以上の方が被害に遭う可能性を認識していることがわかった。

問5 インターネットは「匿名性」が高いため、無責任な書き込みや投稿からトラブルに発展することが多く、ウェブ掲示板やSNSなどにおける名誉毀損・誹謗中傷に関する相談件数も増加傾向にあり、刑事事件として検挙された事例もあります。

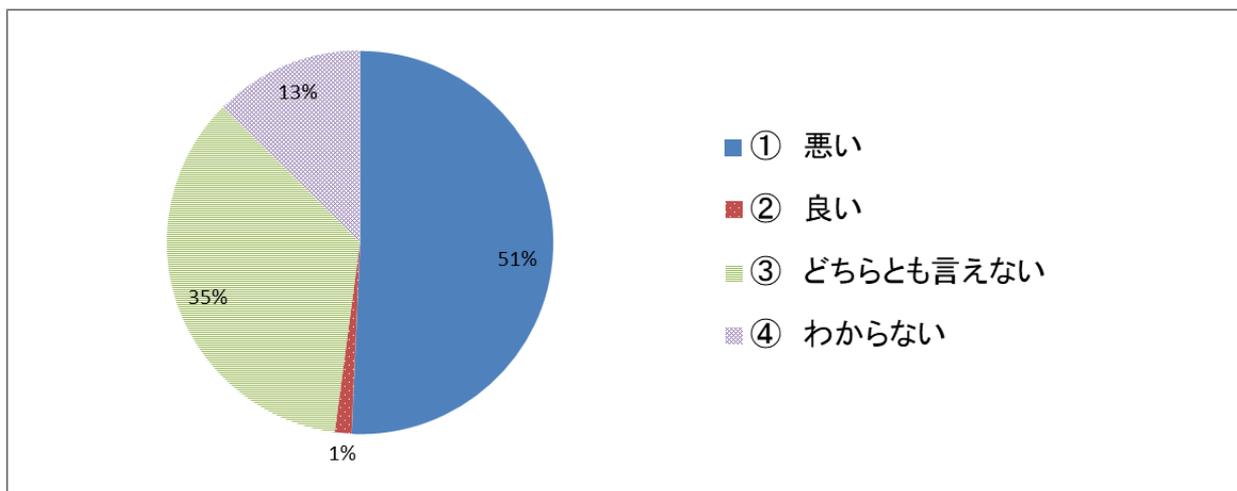
(1) インターネット空間におけるマナー（文章表現、投稿内容など）について、どのように感じますか。

当てはまるものを1つ選んでください。

- ① 悪い（①を選んだ方は（2）にお進みください。）
- ② 良い（②を選んだ方は問6にお進みください。）
- ③ どちらとも言えない（③を選んだ方は問6にお進みください。）
- ④ わからない（④を選んだ方は問6にお進みください。）

	人数 (人)	比率	年代別(人)						男女別(人)	
			10代	20代	30代	40代	50代	60代 以上	男性	女性
① 悪い	109	51%	10	23	14	24	27	11	50	59
② 良い	3	1%	0	0	0	0	2	1	3	0
③ どちらとも言えない	76	35%	5	8	23	19	14	7	32	44
④ わからない	27	13%	0	0	3	4	15	5	10	17
計	215	100%	15	31	40	47	58	24	95	120

※無回答2人



【結果概要】

約半数（51%）の方がインターネット空間のマナーが悪いと感じていることがわかった。

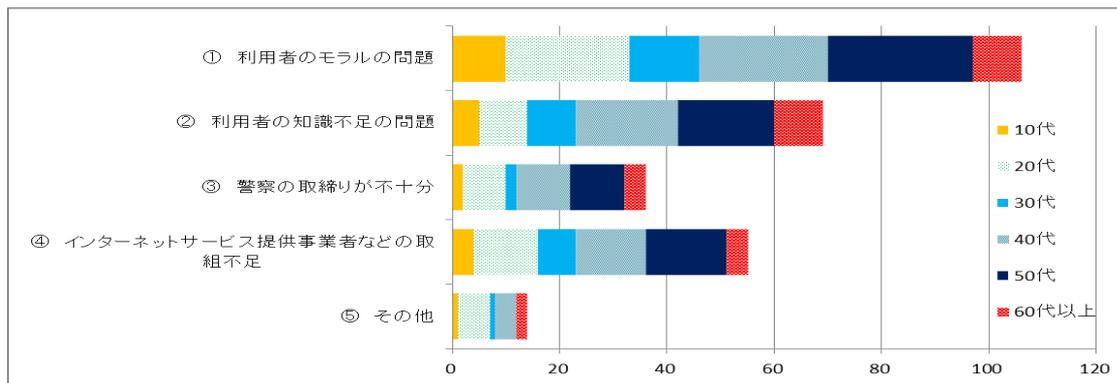
(2) (1)で「①悪い」を選んだ方にお伺いします。

マナーが悪い原因は何だと思えますか。(複数回答可)

- ① 利用者のモラルの問題
- ② 利用者の知識不足の問題
- ③ 警察の取締りが不十分
- ④ インターネットサービス提供事業者などの取組不足
- ⑤ その他(具体的に御記入ください。)

	人数 (人)	比率	年代別(人)						男女別(人)	
			10代	20代	30代	40代	50代	60代 以上	男性	女性
① 利用者のモラルの問題	106	97%	10	23	13	24	27	9	50	56
② 利用者の知識不足の問題	69	63%	5	9	9	19	18	9	36	33
③ 警察の取締りが不十分	36	33%	2	8	2	10	10	4	18	18
④ インターネットサービス提供事業者などの取組不足	55	50%	4	12	7	13	15	4	27	28
⑤ その他	14	13%	1	6	1	4	0	2	6	8

※「比率」は、問5(1)で「①悪い」を選んだ109人を全体数とする比率。



【その他の回答】

- ・ストレス解消のため、ネット環境がはけ口になっている。
- ・匿名性が高く、いたずら半分の誹謗中傷が多い。
- ・被害を受けた被害者が泣き寝入りしてしまう現状がマナーを悪化させている。
- ・「面白ければ良い。」という風潮。
- ・ネット依存問題。
- ・何が犯罪に当たるのか、ウェブ上での広報が不足している。

【結果概要】

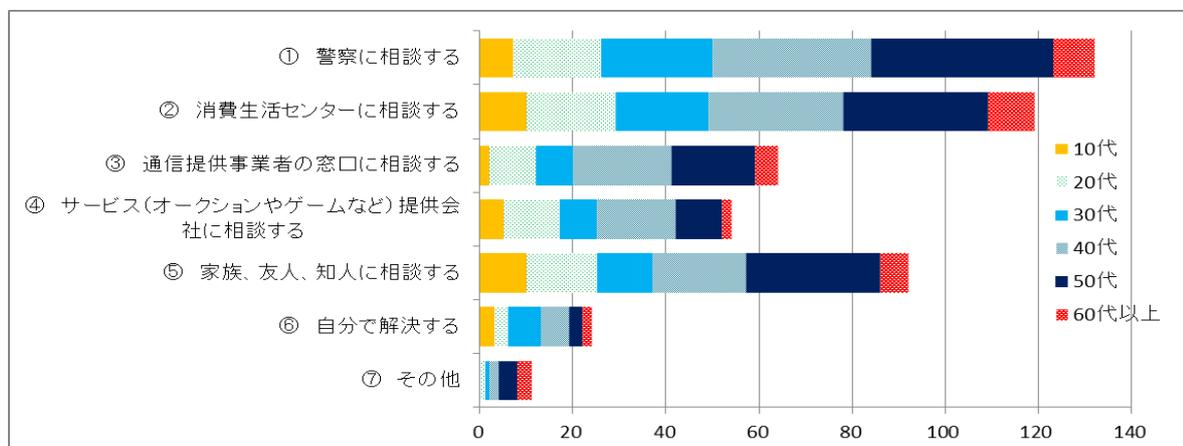
マナーが悪い原因については、利用者自身の問題と捉えている方が多いことがわかった。

問6 問1(1)で「①頻繁に利用する」又は「②時々利用する」を選んだ方にお伺いします。
インターネット上の被害やトラブルに遭った場合、どのように対応しますか。(複数回答可)

- ① 警察に相談する
- ② 消費生活センターに相談する
- ③ 通信提供事業者の窓口相談する
- ④ サービス(オークションやゲームなど)提供会社に相談する
- ⑤ 家族、友人、知人に相談する
- ⑥ 自分で解決する
- ⑦ その他(具体的に御記入ください。)

	人数 (人)	比率	年代別(人)						男女別(人)	
			10代	20代	30代	40代	50代	60代 以上	男性	女性
① 警察に相談する	132	70%	7	19	24	34	39	9	63	69
② 消費生活センターに相談する	119	63%	10	19	20	29	31	10	51	68
③ 通信提供事業者の窓口相談する	64	34%	2	10	8	21	18	5	29	35
④ サービス(オークションやゲームなど)提供会社に相談する	54	29%	5	12	8	17	10	2	23	31
⑤ 家族、友人、知人に相談する	92	49%	10	15	12	20	29	6	44	48
⑥ 自分で解決する	24	13%	3	3	7	6	3	2	14	10
⑦ その他	11	6%	0	1	1	2	4	3	4	7

※「比率」は、問1で「①頻繁に利用する」又は「②時々利用する」を選んだ188人を全体数とする比率。



【その他の回答】

- ・被害が小さい時は諦める。
- ・インターネットに詳しい法律の専門家、弁護士に相談する。
- ・警察に専門知識を持った人がいるか、専門部署があるかが不明。
- ・インターネットの利用をやめる。

【結果概要】

警察や消費生活センターなど公的機関を対応窓口として選択する傾向にあり、引き続き相談機関(内容、連絡先等)周知のための広報を継続する必要がある。

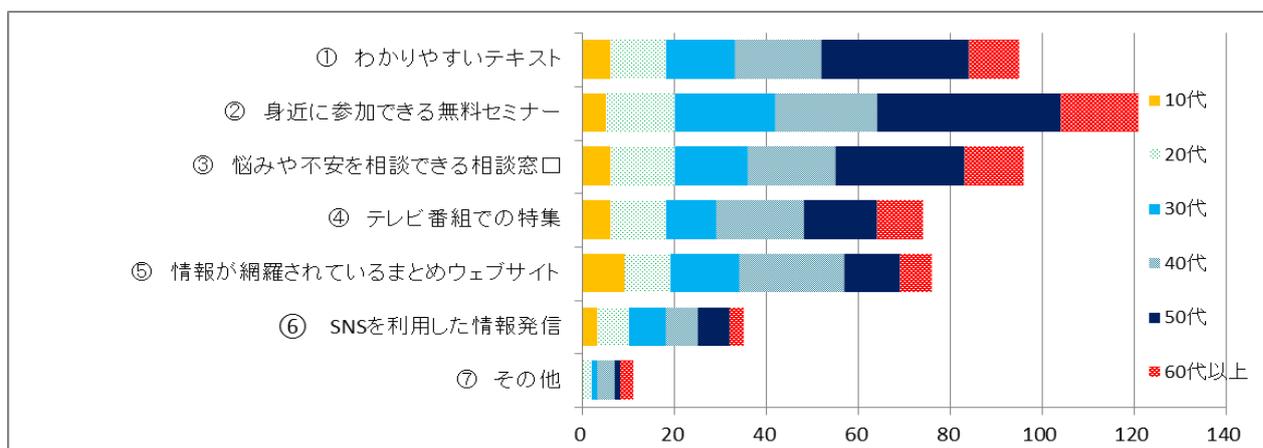
(情報セキュリティに対する意識について)

問7 情報セキュリティ対策を学ぶとしたら、何を利用しますか。(複数回答可)

- ① わかりやすいテキスト
- ② 身近に参加できる無料セミナー
- ③ 悩みや不安を相談できる相談窓口
- ④ テレビ番組での特集
- ⑤ 情報が網羅されているまとめウェブサイト
- ⑥ SNSを利用した情報発信
- ⑦ その他(具体的に御記入ください。)

	人数 (人)	比率	年代別(人)						男女別(人)	
			10代	20代	30代	40代	50代	60代 以上	男性	女性
① わかりやすいテキスト	95	44%	6	12	15	19	32	11	49	46
② 身近に参加できる無料セミナー	121	56%	5	15	22	22	40	17	54	67
③ 悩みや不安を相談できる相談窓口	96	45%	6	14	16	19	28	13	38	58
④ テレビ番組での特集	74	34%	6	12	11	19	16	10	28	46
⑤ 情報が網羅されているまとめウェブサイト	76	35%	9	10	15	23	12	7	41	35
⑥ SNSを利用した情報発信	35	16%	3	7	8	7	7	3	18	17
⑦ その他	11	5%	0	2	1	4	1	3	4	7

※「比率」は、問7の回答者数215人を全体数とする比率。(無回答2人)



【その他の回答】

- ・社内教育を受けている。(IT関係事業者)
- ・機器購入店には、常に相談専門員がおり、気軽に相談できる。
- ・セキュリティに詳しい友人に相談する。

【結果概要】

情報セキュリティ対策に利用するものとして、各方法の回答比率に大きな差は見られない。県民が利用しやすい各種の教材や窓口を用意し、広報啓発活動を推進する必要があると認められる。

問8 問1(1)で「①頻繁に利用する」又は「②時々利用する」を選んだ方にお伺いします。

パスワードを設定するにあたり、どのようなことに気を付けていますか。(複数回答可)

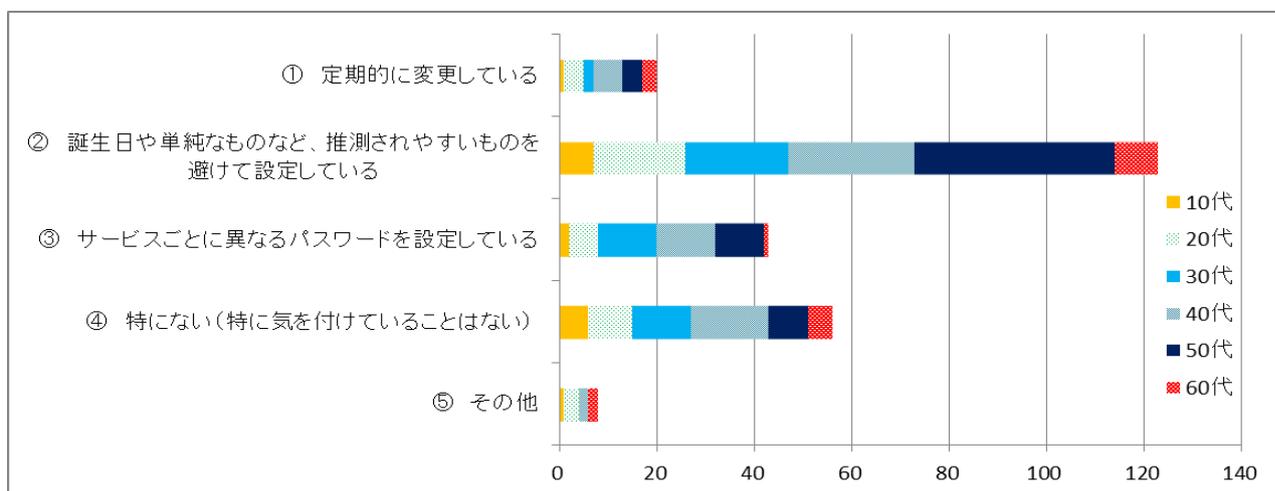
- ① 定期的に変更している
- ② 誕生日や単純なものなど、推測されやすいものを避けて設定している
- ③ サービスごとに異なるパスワードを設定している
- ④ 特にない(特に気を付けていることはない)
- ⑤ その他(具体的に御記入ください。)

	人数 (人)	比率	年代別(人)						男女別(人)	
			10代	20代	30代	40代	50代	60代 以上	男性	女性
① 定期的に変更している	20	11%	1	4	2	6	4	3	8	12
② 誕生日や単純なものなど、推測されやすいものを避けて設定している	123	65%	7	19	21	26	41	9	60	63
③ サービスごとに異なるパスワードを設定している	43	23%	2	6	12	12	10	1	23	20
④ 特にない(特に気を付けていることはない)	56	30%	6	9	12	16	8	5	25	31
⑤ その他	8	4%	1	3	0	2	0	2	1	7

【参 考】

○ 1~3全てに気を付けていると回答した人	5	3%
-----------------------	---	----

※「比率」は、問1で「①頻繁に利用する」又は「②時々利用する」を選んだ188人を全体数とする比率。



【その他の回答】

- ・長めのパスワードを設定している。
- ・パスワードを忘れてしまうことがあるので全て同じものにしていく。
- ・英数字をミックスした長めのパスワードを設定しており、今まで被害に遭ったことがない。

【結果概要】

安全なパスワードの設定について、1~3全てに気を付けている方は僅か3%にとどまり、セキュリティ意識の浸透、向上が必要と認められる。

問9 問1(1)で「①頻繁に利用する」又は「②時々利用する」を選んだ方にお伺いします。

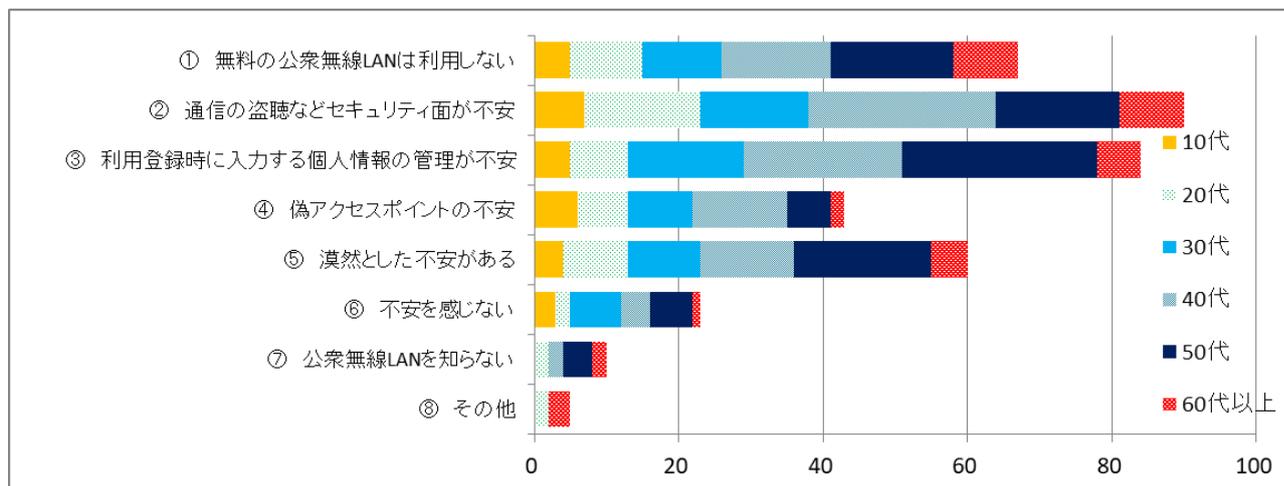
無料の公衆無線LANを利用するにあたり、どのような不安を感じますか。(複数回答可)

- ① 無料の公衆無線LANは利用しない
- ② 通信の盗聴などセキュリティ面が不安
- ③ 利用登録時に入力する個人情報の管理が不安
- ④ 偽アクセスポイント*の不安
- ⑤ 漠然とした不安がある
- ⑥ 不安を感じない
- ⑦ 公衆無線LANを知らない
- ⑧ その他(具体的に御記入ください。)

* 偽アクセスポイント……情報の抜き取りやウイルス感染などを目的として、広く利用される公衆無線LANサービスを偽装して設置されるもの。

	人数(人)	比率	年代別(人)						男女別(人)	
			10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	男性	女性
① 無料の公衆無線LANは利用しない	67	36%	5	10	11	15	17	9	22	45
② 通信の盗聴などセキュリティ面が不安	90	48%	7	16	15	26	17	9	38	52
③ 利用登録時に入力する個人情報の管理が不安	84	45%	5	8	16	22	27	6	39	45
④ 偽アクセスポイントの不安	43	23%	6	7	9	13	6	2	22	21
⑤ 漠然とした不安がある	60	32%	4	9	10	13	19	5	22	38
⑥ 不安を感じない	23	12%	3	2	7	4	6	1	14	9
⑦ 公衆無線LANを知らない	10	5%	0	2	0	2	4	2	9	1
⑧ その他	5	3%	0	2	0	0	0	3	2	3

*「比率」は、問1で「①頻繁に利用する」又は「②時々利用する」を選んだ188人を全体数とする比率。



【結果概要】

公衆無線LANの利用にあたり、セキュリティ上の危険性を意識している方が多い一方、「不安を感じない」と回答した方が約1割(12%)おり、セキュリティ意識のさらなる浸透が必要と認められる。

～ 参 考 ～

○ 公衆無線LANを適切に利用しないと生じる危険性

セキュリティ対策を行わず利用した場合、通信内容を盗み見られたり（盗聴）、他人のID・パスワードを利用して操作を行わせる（なりすまし）等の被害に遭う危険性があります。

○ 公衆無線LAN利用時の注意事項

- ・ 知らないアクセスポイントに接続しないようにしましょう。
- ・ アクセスポイントが暗号化されているかを確認しましょう。
- ・ 大切な情報を入力するときは、「https」で始まるサイトを利用しましょう。

詳しくは、総務省HP「http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/security/wi-fi.html」
(国民のための情報セキュリティサイト) を御覧ください。

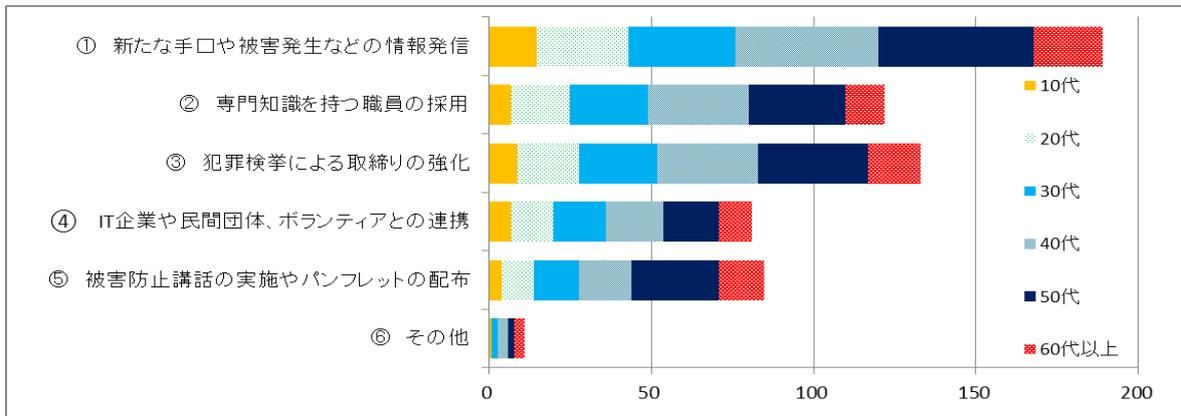
(警察に対する要望)

問 10 インターネット上の秩序を守るために警察に期待することはありますか。(複数回答可)

- ① 新たな手口や被害発生などの情報発信
- ② 専門知識を持つ職員の採用
- ③ 犯罪検挙による取締りの強化
- ④ IT企業や民間団体、ボランティアとの連携
- ⑤ 被害防止講話の実施やパンフレットの配布
- ⑥ その他(具体的に御記入ください。)

	人数 (人)	比率	年代別(人)						男女別(人)	
			10代	20代	30代	40代	50代	60代 以上	男性	女性
① 新たな手口や被害発生などの情報発信	189	88%	15	28	33	44	48	21	83	106
② 専門知識を持つ職員の採用	122	57%	7	18	24	31	30	12	53	69
③ 犯罪検挙による取締りの強化	133	62%	9	19	24	31	34	16	59	74
④ IT企業や民間団体、ボランティアとの連携	81	38%	7	13	16	18	17	10	45	36
⑤ 被害防止講話の実施やパンフレットの配布	85	40%	4	10	14	16	27	14	38	47
⑥ その他	11	5%	1	0	2	3	2	3	5	6

※「比率」は、問 10 の回答者数 215 人を全体数とする比率。(無回答 2 人)



【その他の回答】

- ・自治体と連携した被害防止対策の推進。
- ・身近な問合せに対しても真摯に対応してほしい。
- ・地域住民に寄り添い、共に犯罪を防止しようとする姿勢を持ってほしい。
- ・詐欺などが多く発生している現状から、罰則を強化してほしい。
- ・ゲームを介しての被害の実例等を学校でもっと発信してほしい。

【結果概要】

警察に対して、積極的な情報発信と取締りの強化に期待する方が多く、ソフト(被害防止対策)、ハード(検挙方策)両面の対策が求められる。また、民間企業、住民、学校など、関係機関が一体となった防犯対策を求める声も多く、今後も関係機関と連携を密にして各種広報啓発活動等に取り組む必要がある。